

# リスク管理に関する パネルディスカッション

2026年5月25日

 SMBC 三井住友フィナンシャルグループ

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

## 環境・リスク認識の変化

これまで新型コロナ拡大、ロシア・ウクライナ紛争、相互関税等の外部環境変化に対応  
足元では、中東紛争等の地政学リスク、サイバー脅威、流動性リスク等、外部環境の不確実性が一段と増大



Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

1

まず、我々を取り巻く外部環境は、一段と不確実性が増大しています。

これまでも資料左から新型コロナやロシア・ウクライナ紛争、相互関税などに対応してまいりましたが、足元では資料右側にある新たなリスクが次々と台頭しています。

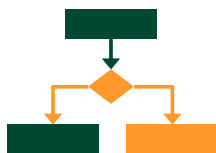
中東紛争の長期化や深刻化、それに伴うサプライチェーンの混乱から波及するインフレ再燃の懸念が増大しています。また、Mythosなどの高性能AIの登場により、それらを活用したサイバー攻撃の脅威が増大しています。

加えて、国内の金融環境の変化による円預金獲得競争の激化やそれに伴う預貸バランスへの影響、プライベートクレジット市場における信用不安の拡大、そしてAI関連株など金融市場の急変動にも注視が必要です。さらには米国の国家ガバナンス変容による予見性の低下など、一層不確実性の高いビジネス環境に直面していると感じています。

# 不確実なビジネス環境に対するレジリエンス強化

リスクの高まり懸念

## トップリスク／波及経路



- 内外事象を踏まえて、経営上、特に重大なリスクを**トップリスク**として選定
- リスクの**波及経路**を整理し、シナリオを具体化

## 予兆把握／ストレステスト



- 波及経路に応じた指標を設定し、**予兆管理**を実施
- **ストレステスト**により、業務影響を分析

## リスクへの対応



- リスク顕在化の状況に応じて、業務運営の見直しなど**予防的対応**を実施
- 事前に危機時における**アクションプラン**を整備

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.  
All Rights Reserved.

2

こうした環境下において、当社はレジリエンスの強化を最重要課題としています。何が起きてもビジネスは続けるということです。我々は内外の事象から「トップリスク」を選定し、そこからリスクがどう波及するか経路を整理してシナリオを具体化しています。そして、波及経路に応じた指標を設定して「予兆管理」を行うとともに、ストレステストで業務への影響を分析しています。また、リスク顕在化の状況に応じた業務運営の見直しなど予防的な対応を行うと共に、危機時のアクションプランを事前に整備しています。

# リスク波及経路分析・予兆把握の態勢

複数のリスクが同時に顕在化するようなシビアケースを含めて、リスクの波及経路を整理  
 リスクシナリオとして、中東情勢の長期化、プライベートクレジット市場の混乱、AIへの期待剥落を想定  
 ➡ 波及経路に応じて、関連する経済・金融指標を設定。各指標に管理水準を設定し、示現状況を見える化

## ▶ リスク波及経路・モニタリング指標例

例



Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

3

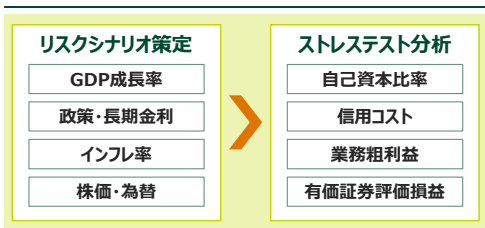
こちらがリスク波及経路分析・予兆把握の態勢になります。  
 現在、複数のリスクが同時に顕在化するシビアケースを含め、  
 様々なリスクシナリオの波及経路を整理していますが、  
 その中で、「中東情勢の長期化」、「プライベートクレジット市場の混乱」、  
 「AIへの期待剥落」が複合的におきるシナリオをご紹介します。

例えば中東情勢の長期化であれば、  
 エネルギー価格上昇からインフレ再燃、  
 そしてスタグフレーションに至る波及経路を描き、  
 その中で、原油価格やCPIなどの指標を設定し、  
 管理水準を設けて、示現状況を常に見える化をしています。  
 プライベート市場やAI関連のリスクについても同様にモニタリングを行っています。

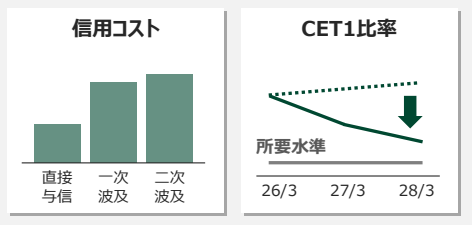
# ストレステスト／リスクへの対応

ストレステストにより、リスクシナリオ示現時の財務の健全性を分析し、経営資源の余力等を確認  
 与信運営見直し等の予防的対応のほか、危機時におけるアクションプランを整備

## ▶ ストレステスト



### ストレステスト結果（イメージ）



## ▶ リスクへの対応

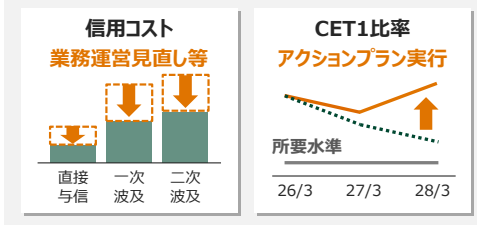
### 予防的対応

- リスクの状況に応じた業務運営方針
- 業種別与信運営・案件採り上げ基準の見直し

### 危機時の対応態勢の整備

- 危機時におけるアクションプランを整備
- 訓練等によるアクションプランの実効性向上

### リスクへの対応（イメージ）



Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.  
 All Rights Reserved.

続いて、先ほどのリスクシナリオが示現時の場合の財務健全性を、  
 ストレステストにより分析し経営資源の余力を確認しています。  
 株価や金利などのマクロシナリオをもとに、  
 信用コストや自己資本比率などへの影響をシミュレーションしております。

右側に行き、この結果を踏まえ、  
 リスクへの対応として業務運営方針を見直すなど、  
 予防的な対応を進めるほか、危機時のアクションプランを整備し、  
 その実効性を高める取組も継続しています。

# リスク管理の基本方針

## 新中計で達成したいこと

### SMBCグループの挑戦を支える堅牢かつ先進的なリスク管理態勢の整備

#### 不確実なビジネス環境や複雑化するリスクに対するレジリエンス強化

##### ビジネス環境

- 国内の金融政策正常化
- 米国のインフレ再燃や金融不安
- 地政学的緊張の高まり 等

- バランスシート運営の高度化
- ストレストテスト・予兆管理を強化
- 有事の即応力向上

#### 事業戦略の実現に向けた健全なリスクテイク推進

##### 事業戦略

- アジア・資本市場のビジネス拡大
- アセットライトビジネスの強化 等

- リスク管理態勢の整備
- リスクカルチャー醸成

#### グループベースのグローバルリスク管理基盤の構築

##### リスク管理を取り巻く環境

- 人材確保の難易度が上昇
- リスク管理の領域・求められる専門性の幅の拡大

- リスクガバナンスの強化
- システム整備やAI活用の推進

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.  
All Rights Reserved.

5

最後にリスク管理の基本方針をご説明します。

新中期経営計画において我々が達成したいこととして、「SMBCグループの挑戦を支える堅牢かつ先進的なリスク管理態勢の整備」を挙げています。

冒頭より説明した左側の「レジリエンス強化」に加え、真ん中「事業戦略の実現に向けた健全なリスクテイク推進」に向けてリスク管理体制やリスクカルチャーの整備を進めるとともに、右側の「グループベースのグローバルリスク管理基盤の構築」を掲げ、リスクガバナンスやシステム整備、さらにはAI活用の推進に取り組んで参ります。

# リスク委員会の概要

## 監督

### 取締役会

指名委員会

報酬委員会

監査委員会

リスク委員会

サステナビリティ  
委員会

## 執行

グループ経営会議

各種委員会

### ▶ リスク委員会の概要

位置付け	三井住友フィナンシャルグループの取締役会における内部委員会
開催頻度	原則年4回
審議対象	取締役会の委嘱を受け、株主利益の観点から、次の事項を審議し取締役会に助言 ① 環境・リスク認識とリスクアペタイトの運営 ② リスク管理に係る運営体制 ③ その他リスク管理上重要な事項

### ▶ メンバー

独立社外 取締役	レイク取締役	アフラック生命保険代表取締役 会長、委員長 (24/9月-)
	手代木取締役	塩野義製薬代表取締役会長 兼社長・CEO
社内 取締役	安地取締役 執行役専務	グループCFO・グループCSO
有識者	山口日興リサーチ センター理事長	元日銀副総裁
	山崎特任教授	元財務省財務官